

**** 第7回女性医師の生き方セミナーを開催 ****

女性医師メンターは、女性医師の身近なところで相談に応じ、助言を行う先輩医師のことで、金沢大学附属病院では4人の医師が石川県からの委嘱を受けて活動しています。

この度、女性医師の生き方セミナーが、3月11日（土）午後2時30分から、金沢大学附属病院女性医師メンターを中心として、金沢大学附属病院、金沢大学男女共同参画キャリアデザインラボラトリー、石川県女性医師支援センター、Hokuriku Women Researchers' Network（HWRN）の主催により、金沢大学附属病院宝ホールを会場として開催されました。

女性医師の生き方セミナーは、多くの悩みを抱えながら日々の診療に従事している女性医師やこれからの世代を担う女子医学生、また、その女性たちを支える方々を対象に、医師としての生き方を考える機会の提供を目的として毎年開催しているもので、第7回となる今回は、「女性医師が働く現場から」と題して、身近な医師の話聞き、講演者と自由に懇談する形で企画され、石川県内医療機関の医師を含め、医師、医学生など男性を含む約40名が参加しました。

森下英理子女性医師メンターの開会挨拶の後、第1部の講演では、伊川泰広・小児科病棟医長、波多野都・耳鼻咽喉科・頭頸部外科助教、白井明子・漢方医学科医員、森島智美・麻酔科蘇生科医員、奥田実穂・放射線科医員から、「両親が医師で、運動会等の行事に母親が来た記憶はないが、母親の愛情は常に感じており、現在は医師を続けてきた母親を尊敬し、目標である。」、「医師として働くことに女性、男性の性別は関係ない。」、「夫婦が互いを理解して協力し合うことができれば百人力である。」、「母親になることで、病気の子供を想う親の気持ちを理解できるようになる。」、「壁を乗り越えるポイントは、口角を上げる・温かく差しのべられた手に感謝する・壁を壁と思わない（プラス思考）である。」、「仕事のために結婚をあきらめるとか、結婚、育児のために仕事をあきらめるとかいった時代は終わった。育児支援サービスは充実してきており、金沢市の産前・産後ママヘルパーサービスなどをどんどん利用すれば良い。」など、経験談を交え、とても刺激的で参考になる講演をいただきました。

また、第2部の講演者を囲んでの懇談は、小川恵子女性医師メンターの進行により、和やかな雰囲気の中、女性医師のキャリアアップや仕事と育児の両立、組織の中で女性医師はどう合理的に働くかなど、有意義な意見交換の場となりました。

参加者からは、「具体的な話が聞けて、将来のキャリアアップへの不安が少し解消された。」、「育児に妻より関わりたい男性医師への対応（制度等）も聞いてみたい。」、「男性・上司の立場での講演が、とても参考になった。」、「職場での連携も大事だが、夫婦間での連携もより大切だと思った。」など大好評をいただきました。